

ハ爾等ノ仇敵タルモ亦爾等ト同シク人類ナルニアラズヤ
我等誰レチカ強迫センヤ爾等ノ中ヨリ爾ノ呵責センテ恐
レテ神ノ誠命ニ背キ偶像邪神ヲ拜セシ者ヲ輕視セシモ豈
ニ彼等ノミ獨リ罪人ナランヤ彼等ヲ強迫シテ諸神ニ獻祭
セシメシ爾等モ亦罪人ナリ唯之レノミナラズ爾等ハ神ノ
與ヘ玉ヒシ誠ヲ屢ハ破リタレハ爾等コソ實ニ大ナル罪人
ナレト

此ノ後ヒオニイハイウデヤ人ヲシテ謙遜ノ心ヲ起シ己レ
ノ犯罪ヲ曉ラシメント欲シ之ニ向ヒ其ノ迷ニ染ミ惡弊ニ
流レ感謝ノ心ヲキチ責メ各人ノ行爲ニヨリテ審鞠スル神

ノ裁判ノ已ニ近キヲ述ヘ且ツ言ヲ加ヘテ曰ク我レ今爾ノ
土地ヲ過キ多クノ燒キ滅ホサレタル城趾ノ寂々トシテ果
テ結ハザル田畑ニ變シタルヲ見タリ是レ皆神ノ怒リニ罹
リシナリトイウデヤ人等ハ初ヨリ默視シテヒオニイカ督責
ノ言ヲ聽キ居リシカ其ノ中忽チ己レノ罪ヲ悟リ悔ル心ヲ
起セシ者アリ言靜カニ司祭ニ向テ曰クヒオニイヨ爾溫柔
ニシテ志操ノ正シキ人ナレハ我レ爾ヲ愛シ深ク惜シミテ
切ニ爾ヲ救ハントナリ願フ也夫レ爾モ此ノ美ナル世ニ生存
シテ天日ノ温和ナル光ヲ見ルヲ樂シト思フナラン
ヒオニイ答テ曰ク然リ我レ何ソソ此ノ世ニ生存スルコトヲ

厭フ者ナラシヤ然レド永遠ノ生命ハ此ノ限リアル生命ニ
 較ブレハ甚タ優レリ我等彼所ニ至ラシテ望ミ之カ爲ニ
 勞スルナリ我等ノ中誰モ神ノ造物ヲ厭フ者ナシ我等カ居
 ル所ノ形アル世界モ固ヨリ美麗ナレト肉眼ニテ見ル能ハ
 ザル形ナキ世界ノ最ト美麗コソ甚タ潔ヨキハ我等之ヲ言
 フ能ハサルナリト
 異教人ハ又「ハリステイアノン」等ニ諸神ニ献祭シテ己レノ生
 命ヲ救フ可キヲ勸メタリ然レト「ハリステイアノン」等ハ其
 ノ言ニ從ハザリケレハ異教人ノ一人大聲ニ呼テ曰ク彼等
 若シ自ラ死ヲ決セハ我等何ソ言ヲ費サソヤトボレモン、ヒ

オニイニ向テ曰ク爾尙ホ固執シテ斷然我等ノ勸メニ從テ
 諸神ニ祭ヲ献ズルヲ諾セザルカ」ピオニイ聞キ敢ヘズ呼
 テ曰ク我ハ唯祭ヲ献セザルノミナラズ若シ能クシ得ハ爾
 等ヲモ我等ノ如ク「ハリステイアノン」トナサント思フナリト
 異教人等之ヲ聞キ大ニ笑ヒテ曰ク我等豈ニ烈火ノ中ニ投
 セラレテ死スルヲ望マンヤト
 ピオニイ曰ク爾等死後不滅ノ火ニ投セラレテ切齒センヨ
 リハ寧ロ優ルニアラズヤ」
 斯クテ裁判官ハ「ハリステイアノン」等カ威ナ心ヲ決シ勸ガザ
 ルヲ見種々尋問シ其ノ答辨ヲ筆記シ遂ニ獄屋ニ繋クヲテ

命シタリ然レト「ハリスティアニン」等ハ固ク神ノ誠ヲ守リテ
 動カザレハ群衆忽チ鼎ノ沸クカ如ク怒リテ「ハリスティア
 ニン」ヲ罵リシガ其ノ中一人進ミ出テ大聲ニ呼テ曰ク今直
 チニ彼等ヲ苦シメヨト「ビオニイ」温言答テ曰ク視ヨヤ今誰
 レモ爾等ヲ妨ケズ我ニ兵士ノ護衛スルナク且ツ身ヲ守ル
 ノ寸鐵ナキチ我身全ク爾等ノ手ノ中ニアリ爾等己レノ好
 ム所ニ任セテ行フヘシト
 此ノ時人アリアスクリフヲ指シテ曰ク此ノ人ハ我等ノ諸
 神ニ獻祭セントスル者ナリト「ビオニイ」直チニ答テ曰ク否
 ナ我等ノ中一人モ爾等ノ偶像邪神ニ祭ヲ獻スル者ハアラ

サルナリト「異教人等ハ其ノ窘逐ヲ恐レテ諸神ニ祭ヲ獻ス
 ルヲ諾シシ者ノ名ヲ一々讀マシメシコビオニイ」自若トシ
 テ曰ク人各々己レノ望ミアリ故ニ我カ「ハリスティアニン」中
 或ル者ハ爾等ツ云フが如ク爾等ノ諸神ニ祭ヲ獻スルヲ諾
 セシ者モアリシナランカ然レト我等ハ決シテ祭ヲ獻セサ
 ルナリト
 此ノ時若シモ兵士等ナカリセハ殘暴ナル異教人等ハ忽チ
 群カリ攻テ「ハリスティアニン」等ヲ打チ殺シタルモ知ルヘカ
 ラサルニ幸ナル哉兵士等「ハリスティアニン」等ヲ護守シテ之
 チ防キシカハ恙カナキヲ得タリ頓テ兵士等ハ「ハリスティア

アノン等ヲ引キテ獄舎ニ至リシカ此ノ時裁判官ハ長官ノ
 在ラザリシ故彼等ヲ處スルノ權アラザレバ先ツ獄舎ニ繫
 キテ裁判長ノ歸ルヲ待チヨリ
 彼等三人獄舎ニ囚セラレ彼所ニ於テイイススハリストス
 ナ信スルガ爲メ捕ハレシ司祭リン及ビ「ハリステイアノン」ノ
 婦人マケドニヤニ遇ヒタリ彼等ハピオニイ及ヒ「ハリステイ
 アノン」等ノ顔ヲ見テ喜ヒ少ナカラス互ニ獄舎ノ悲憂ヲ慰
 メ共ニ欣テ死スルノ日ヲ待チタリ
 スミルナノ住民ハ時々獄舎ニ訪ヒ來リテ彼等ヲ慰メ或ハ
 種々ノ贈物ヲ爲シ或ハ「ハリステイアノン」等ノ生命ヲ救ハン

トシテ速ニハリストスヲ棄テ偶像ニ祭ヲ獻センコトヲ勸メ
 タレモ其ノ諭言モ寸功ナク一人モ彼等ノ勸メニ従ハザリ
 シカバ人々「ハリステイアノン」等ノ堅キ心ト勇敢ナルコト驚キ
 テ皆去リタリ又彼ノ窘逐ヲ恐レハリストスヲ棄テ偶像ニ
 祭ヲ獻スルヲ肯カヒシ不幸ナル人々モ獄舎ニ來リテ深ク
 己レノ罪ヲ悔ヒ泣キ悲シミタレハピオニイモ共ニ涙ヲ流
 シ其ノ善良敬虔ナルモ神ニ忠ナランカ爲メニ要スル所ノ
 堅キ心ヲ持サルカ爲メニハリストスヲ棄テシテ大ニ悲歎
 シテ曰ク噫今ヤ我カ正教會ノ寶ハ豕ニ踐ミ汚サレ天ニ輝
 キシ列星ハ尽ク地ニ落チ神ノ右手ニテ植タル葡萄ハ野獸

ノ食トナリシヲ見テ我カ胸、割カル、カ如シ諸子ニ我レ更ニ眞理ノ光ニテ照ラサル、ヲ見ンコトヲ願フ也噫、天ノ餅ニテ養ハレシ兒等ヨ何ンスレソ眞ノ道ヨリ遠カリシヤ何ノ故ニ眞ノ神ヲ棄テタルヤ」ト

「ヒオニイ又深ク「ハリスティアニン」等カ心胸ノ狭小ナルト不信仰ナルヲ歎キ慟哭シテ曰ク噫々今ヤ地上ニ大ナル饑饉來レリ此ノ饑饉ハ食物ノ饑饉ニアラズ飲料ノ饑饉ニアラズ神言ノ饑饉是レナリ今ヤ福音ノ處女ハ皆眠リテ出テ」新郎ヲ迎ヘス地ノ盪ハ其ノ味ヲ失ヒテ外ニ棄テラレ惡魔ハ我等ノ心中ニ惡シキ麥種ヲ蒔カントス今ヤ神ノ言ニ

應スルヲ致セリ曰ク人子再ヒ地ニ來ル時、信スル者ナカル可シト然レト兄弟ヨ是ノ如キハ必ズ神ノ力ノ弱キカ爲メナリト思フ勿レ是レ我等ノ力ノ弱キナリ諸ノ罪惡ハ神ヨリ我等ヲ離セシナリ我等實ニ神ノ誠命ヲ破リ罪ヲ犯シテ上ハ神ヲ怒ラセ下ハ人ヲ憂ヒシメタリ然レト我カ兄弟ヨ望ヲ失フコト勿レ」ト又教ヲ棄テシ「ハリスティアニン」等ニ謂テ曰ク爾等ハ眞神ヲ棄テ偶像邪神ヲ拜スルヲ以テ大ナル罪ヲ犯シタリ然レト誠心ニテ痛悔シ全心誠意ヲ尽シテ神ニ祈ルヘシ主ハ仁慈ナレハ総テ誠ニ悔イ改ムル者ヲ赦スコト恰モ父ノ其ノ子ヲ受クルカ如ク喜ヒ受ケ玉ハ」ト

ピオニイハ一言、一涙、大息シテ語りケレハハリストスニ背
キ偶像邪神ヲ拜セシ不幸ナルハハリストスティアニン等ハ大ニ感
動シ深ク悔改ノ心ヲ起シ己レノ罪ヲ歎キテ赦ヲ主ニ祈リ
大聲ニ呼テ曰ク我レ眞神ヲ承認セリト

暫クアリテ神官ノ長ボレモント官吏フエオフルハ士卒ヲ率
テ獄舎ニ入り來リハハリストスティアニン等ニ告テ曰ク爾等ノ
主教エウクテモント今我等ノ神殿ニ至リテ祭ヲ献セントセ
リ爾等若シエウクテモント神官ノ長トノ裁判ヲ受ケテ罪
ニ處セラレヌトナ望マザレハ速ニ來リテ諸神ニ祭ヲ献ス
ベシト

ピオニイ答テ曰ク若シ我等ノ主教エウクテモントガ爾等ノ
諸神ニ祭ヲ献セシモ我等ニ於テ何ノ關係アラシヤ人各々
己レノ意アレハ己レノ欲スル所ニ從フテ行フヘシ彼ノ主
教或ハ爾等ノ神官ハ何ソソ我等ヲ裁判スルノ權アラシヤ
我等ヲ裁判セン者ハ獨リ裁判長アルノミト

ボレモントフエオフルハ之ヲ聞キ大ニ怒リテ去リタリシガ
又來リテハハリストスティアニン等ニ告テ曰ク今裁判長來リテ爾
等ヲ裁判セントス故ニ我等ヲソ爾等ヲ引キ到ラシムト是
レ偽計ニシテ彼等ヲ強迫シテ邪神ニ献祭セシメント欲セシ
ナリ故ニ士卒ニ命シテ直ニハハリストスティアニン等ヲ邪神ノ殿ニ

護送セシメタリ「ハリスティアニシ」等之ヲ悟リテ曰ク我等何
 シ偶像ヲ殿ニ足チ踐マンヤ何ソ邪神ヲ拜セシヤ」ト之ヲ拒
 ミタルモ士卒等ハ彼等ノ首ニ繩ヲ繫キ強テ彼等ヲ引キテ
 邪神ノ殿ノ傍リニ至リシガセオニイハ往カズト争フテ地
 上ニ倒レケレハ六人ノ士卒ハ忽チ彼ノ手ヲ取り偶像ノ殿
 ニ入レ祭壇ノ傍ラニ置キタリシカ憐ムヘシ主教エウクタイ
 モシムハリスティアニシニ背キ實ニ邪神ニ祭ヲ献ケ居タリキ神
 官等問フテ曰ク何ノ故ニ爾等ハ祭ヲ献スルヲ肯セサル
 ヤ」ト答テ曰ク我等ハ「ハリスティアニシ」等之ニ答テ曰ク我等ハ「ハリス
 テリアニシ」等ノ頭ニ被ラシメシカ「ハリスティアニシ」等ハ直ニ

「トス」信徒ナリ何ソ偶像ニ祭ヲ献セシヤ」ト
 此ノ時異教人等ハ「ハリスティアニシ」ノ信仰ヲ笑ヒ其ノ神ノ
 十字架ニ釘セラレシヲ嘲リ或ハ互ニ私語シテ曰ク彼等
 ヲ強迫シテ祭ヲ献セシム可シ」ト
 セオニイ曰ク偶像邪神ヲ拜スル者等ヨ爾少シシ耻ヲ悟リ
 テ已レノ法律ニ従フヘシ夫レ爾等ノ法律ハ我等ヲ死ニ處
 スルヲ許ルセドモ我等ヲ強迫スルヲハ許ルサルコト
 ラズヤ」ト
 異教人等ハ祭ヲ献スル時、用ウル所ノ冠ヲ取り強テ「ハリス
 テリアニシ」等ノ頭ニ被ラシメシカ「ハリスティアニシ」等ハ直ニ

之ヲ脱キ棄テ之ヲ踐ミ毀リケレハ神官異教人士卒等大ニ怒リ蜂擁シテ酷ク鞭撻シタリ是ク種々手ヲ尽シ術ヲ極メタレト遂ニ「ハリステイアニン」等ノ信仰ヲ動カスト能ハザレハ再ヒ彼等ヲ獄舎ニ繋キタリ

其ノ後、數日ヲ經テ裁判長クワンテリアン至リ「ハリステイアニン」等ヲ裁判所ニ呼ビ出シハリストスニ背キ諸神ニ祭ヲ獻ケルコトヲ勸メ又「ピオニイ」ヲ拷治シテ其ノ堅キ信仰ヲ碎カント試ミタルモ此ノ拷治モ「ピオニイ」ノ信仰ヲ動カスト能ハザレハ裁判長ハ遂ニ之ヲ死ニ處シ左ノ如ク宣告シテ曰ク自ラ「ハリステイアニン」ト認ムル「ピオニイ」ハ十字架ニ釘

ウチ烙刑ニ處ス

斯クテ「ピオニイ」ハ士卒等ニ引カレテ刑場ニ至リ先ツ「主ニ感謝シ而シテ自ラ己レノ衣ヲ脱キ十字架ノ上ニ臥シテ釘打レシガ爲メニ手ヲ伸シタリ士卒等ハ彼ノ手足ニ釘打チツ、彼ニ語りテ曰ク「ピオニイ」王ニ從ヒナハ我レ直チニ「ピオニイ」釘ヲ抜キ去ルヘシ然レハ爾又、此ノ世ニ生存スルコトヲ得ント聖「ピオニイ」眼ヲ開キ士卒ヲ視、言テ和ケテ曰ク我ハ今ヨリ寢ニ就キテ永遠限リナキ福ナル生命ニ醒メントヲ希フナリトカクテ士卒等ハ十字架ヲ立テ其ノ足下ニ薪ヲ積ミテ火ヲ放チケレハ聖致命者ハ両眼ヲ閉テ神ニ祈リ

シカ火焰益ニ熾ニシテ黒煙十字架ヲ蔽ヒタレハ多クノ異
 教人等ハビオニイノ聲ヲ聞カザルユヘ已テニ死シタリト
 思ヒシニヤ、久シテビオニイ眼ヲ開キ刑場ニアル群衆ヲ
 視、主ヨ願クハ我カ魂ヲ受ケ玉ヘヨト云ヒ終リ忽チ世ヲ逝
 リタリ暫クシテ火モ消ユシカ不可思議ナル哉聖致命者ノ
 死体ハ少シモ傷ツカスシテ天國ノ樂ハ自カラ其ノ面ニ顯
 ハレ光リ輝キタリト云フ

ビオニイト共ニ獄舎ノ中ニアリ心ヲ堅ウシテ己レノ信仰
 ヲ守リシ他ノ「ハリステイアニ」等ノ終焉ハ如何ナル形狀ナ
 リシヤ詳カナラズト云

○我等ノ父成徳ナル表信者フエオファンノ傳廿四日
 成徳ナルフエオファンハ第八世代ノ頃コンフタンテノーボリ
 城ニ生レ皇家ニ由縁アル貴顯ナル一氏族ノ子ナリ幼ニシテ
 父ヲ失ヒコンスタンティンコプロニム帝ノ膝下ニアリテ養
 育セラレシカ帝ハ彼カ幼年ノ時ヨリ其ノ母ノ意ニヨリ一
 顯官ノ女ヲ聘定セリ斯ク彼レハ名族ニ生レ父ノ遺業ヲ受
 ケ貴紳ト婚ヲ約シ益々顯ハレケレハ後、顯官ニ昇リ榮貴ヲ
 受クルニ何ノ難キヲアラシヤ然レト少年フエオファンハ斯カ
 ル富貴尊榮ヲ願ニス唯熱心ニ神ヲ愛シ富貴ト此ノ世ノ安
 樂ヲ棄テ只管、身ヲ獻シテ神ニ奉事センヲ希ヒタリ蓋シ

彼レハ此ノ世ノ富貴安樂ハ魂ノ爲ニ危キ者トナセハナリ
 フェオフンハ心ヲ尽シテ主ノ教ヲ學ヒ貧者ヲ助ケタルモ素
 志ヲ遂ケ世ヲ棄ルヲ能ハザリシ蓋ハ彼ヲシテ婚配セシメ
 ノヲ願ヒシ母ヲ悲歎ニ沈ムルヲ恐ルレハナリ故ニ暫
 ク母ノ意ニ從ヘリ斯クテフェオフンハ婚配セシ後其ノ年若
 キ妻ヲ別室ニ召ヒ己レノ宿志ヲ明カシ此ノ世ヲ棄テ身ヲ
 清貧ニ安シ神ヲ愛スルガ爲メニ自ラ功勞セントノ望ヲ告
 テ曰ク至愛ナル我カ妻ヨ爾ハ我等カ生命ノ片時コシテ限
 リアルト死期何レノ日カ知ルヘカラザルト世ノ安樂ノ中
 コアリテ神ヲ忘ルハ者ハ必ス裁判ヲ受ルヲ知ルナラン

又聖福音書ニ幸福ナル者トナス所ノ者ハ此ノ世ノ富貴或
 ハ權力アル者ニアラス彼ノ虚心ナル者哀憫スル者飢渴義
 ヲ慕フ者主イエスキリストノ爲メニ迫害窘逐セラル
 ヲ者ナルヲ知ルナラン窄門ニ進ム者ハ永生ニ入り闊門寬
 路ニ就ク者ハ沈淪ニ至ルナリ故ニ我レ常ニ我カ財產ヲ以
 テ貧者ニ饋テ與ヘ清貧ニ安シ功勞シ謙遜シテ神ニ奉事セ
 ント思フナリ若シ爾之レヲ諾セハ我レ速ニ之ヲ爲サント
 フェオフンノ新婦ハ殊勝ニモ毫頭背カスシテ良人ノ意ニ從
 ヒシカ其ノ夜二人ハ夢ニ神使ガ彼等ノ志望ヲ嘉シテ祝ス
 ルヲ見タリ

虔敬ナル夫妻二人ハ歡樂奢侈ヲ極メシ大館高堂ノ内ニ住
 ミナカラ全ク主ニ依頼シ徳ヲ修メ神ノ法律ヲ學ヒ其ノ誠
 命ニ遵ヒ潔ヨク己レノ魂ヲ守リタリ
 然レト是ノ如キ度生ハフエオファンカ外舅ノ意ニ適ハズ蓋シ
 彼レハ其ノ女婿ノ富貴榮達ヲ計ラシテ欲シタレトフエ
 ファンカ世ノ幸福ヲ願ミズ夫妻備ニ奢侈歡樂ヲ極メシ大館
 ノ内ニ住ミナカラ恰モ隱匿者ノ如ク世ヲ渡リ甚ト富裕ナ
 ル財産ノ過半ヲ貧人ニ頒チ與フルヲ見テ心甚ク不滿ナリ
 ケレハ皇帝ニ請願シテ遠境ノ縣官トナサントシタリ其ハ
 フエオファンカメ事務繁劇ナルカ爲メ神ヲ忘レシメントテ欲

シテナリ帝之ヲ許可シフエオファンカシテ民心穩カナラスシ
 テ常ニ治メ難キ小亞細亞ノキジクノ縣令トナシタリ
 フエオファンカ妻ヲ携テ海路任所ニ赴ク時徳ヲ修ムルカ爲メ
 多クノ隱士カ住ミシシクリアン山ノ麓ニ宿セシガ峯嶺峨
 ヲトシテ遠ク雲際ニ聳エ樹木森々トシテ深ク谷ヲ掩フナ
 遙カニ臨ミ見テ野ニ隱レントスルノ宿望彌々加ハリ聖隱
 士等ヲ訪ハンカ爲メ時々陸ニ上リタリ或ル日樹陰ニ憩ヒ
 覺ヘス寢リシニ先ニ顯ハレタル神使夢ニ顯ハレテ遙カニ
 彼方ノ曠野ヲ指シ示シテ曰ク爾、彼所ニ住メヨ然レト今日
 ニアラス爾委任セラレシ事務ヲ成シ終リシ後チ自由ノ身

トナリシ時ナリト
 一隱士アリ又此ノコヲフエオフアンニ告ケ且ツ後致命ノ榮冠
 ヲ被ムラント預言セシトゾ斯クテフエオフアンハ任所ニ至リ
 精勵其ノ職ヲ尽シ仁政ヲ布キ大ニ功蹟ヲ顯ハン任滿ナテ
 コンスタンテナノーポリニ還リタリ
 其ノ後幾クモナクシテ外舅死シ母モ已テニ世ヲ逝リタル
 ハフエオフアンハ今ハ自由ノ身トナリ始メテ宿志ヲ遂ケタルノ
 時至レリト思ヒ因テ少許ノ金銀ヲ遺シ置キ悉ク財產ヲ以
 テ貧人ニ頒テ與ヘ妻ハ女修院ニ入り己レハ獨リシグリア
 ノ山ニ上リ修士トナリテ暫クノ間虔敬ナル隱士ニ從ヒ其

ノ教訓ヲ受テリ後修道院ヲ創立シ次テ深野ニ避ケ又コ、
 ニニ修道院ヲ創立シケレハ兄弟四方ヨリ群集シ而シテ一
 人ノ嚴正ニシテ虔敬ナル者ヲ擇テ総理トナシフエオフアンハ
 他ノ兄弟ト偕ニ之ニ從ヒ而シテ或ハ祈禱シ或ハ書翰ヲ賸寫
 シテ之ヲ販賣シ價ヲ得テ己レト兄弟トノ資用ニ供シタリ
 カクテ総理ノ死セシ後衆兄弟咸ニ同心フエオフアンヲ擇ヒ其
 ノ職ヲ襲カシメントセシカハ彼レ首領トナルヲ欲セズ
 シテ竊ニ修道院ヲ脱シタリ
 斯クテフエオフアンハ遠ク深野ニ避ケタルモ幾クモナクフエ
 オフアンノ潔キ行ト其ノ行ヒシ奇蹟トヲ聞キ虔敬ニシ其ノ

徳ヲ慕フ人々、日ニ月ニ集リテ又大邑ト稱フル名高キ一ノ、
 修道院ヲ營ムニ至リ而ソフエオフンハ此ノ新タニ建テシ修
 道院ノ長タルヲ免カル能ハザリシ然レト彼ハ其ノ職務上
 ニ於テ全クハリストスノ聖言ヨ爾等ハ中、大ナラント欲ス
 ル者ハ爾曹ニ役セラレ、者トナルベシ又爾等ハ中首ヲラ
 ント欲スル者ハ爾曹ノ僕トナルヘシ（馬太二十章廿六、廿七節）トノ誠ヲ
 守リ大ニ謙リテ衆兄弟ニ事ヘ勤勞ト徳義トノ龜鑑トナリ
 意味深キ教訓ヲ以テ之ヲ導ヒキタリ
 成徳ナルフエオフンハ聖像ヲ尊フベキヤ否ヤノ疑問ヲ議定
 センカ爲メ降生七百八十八年ニ開カレタル第七聖地公

會ニ參與セシガ爲メヨニケヤ城ニ召サレ總主教クラシイ
 ト力ヲ合シ銳意ニ正教ヲ守リ公會終リテ己レノ修道院ニ
 歸リ前ノ如ク勤行勞苦ニ日ヲ送リタルモ幾クモナクシテ
 重キ疾ニ罹リ已テニ床ヨリ起ツ能ハザルニ至リタリ然レ
 ト其ノ病苦ヲ耐ヘ忍ヒ神ヲ讚メ揚ケ其ノ仁慈ノ深キヲ感
 謝シテ止マサリキ斥像ノ異端ハ第七聖地公會ニ於テ已
 ニ闢除セラル、モ終テ聖像ヲ敬ヒ尊フ者ヲ酷ク窘逐スル
 アルミヤノ人レオノ帝時ニ至リテ此ノ異端又起リ總主教
 聖ニキホルハ除黜セラレ成徳ナルフエオドルストデイト及
 多クノ人々ハ窘逐セラレテ遠境ニ配流セラレタリフエオフン

シハ深ク衆人ノ望ヲ属シ敬ヒ尊ハル、者ナレハ異端者ハ
 彼ヲ誘ハントシテ使者ヲ遣ハシケレバフエオフンハ痛ク病
 苦ニ疲レ且ツ老衰セルナモ顧ミズ正教會ノ定理ヲ守ラソ
 カ爲メコンスタンタイノ^イボリニ至レリ帝一人ノ大臣ヲ其
 ノ旅館ニ遣ハシ彼レニ云ハシメテ曰ク爾我等ニ同意ヲ表
 スル者トナレヨ然ルキハ爾ノ修道院ヲ富マシ爾ヲ高位ニ
 昇シ総テ爾ノ同郷人ニ仁慈ヲ施サン爾若シ之ヲ聽カスン
 バ爾ヲ苦ミニ渡サント
 成徳ナルフエオフン答テ曰ク此ノ世ノ尊貴福樂ハ我ノ願フ
 所ニ^アラス我レ幼ヨリ主イイススハリストスニ奉事セシ

ガ爲メ悉ク之ヲシテタリ豈ニ能ク之ヲ以テ此々老人ヲ迷
 ハスヲ得ンヤ且ツ我が修道院ト同郷人ノ如キハ神自カラ
 之ヲ慮カリ玉ヘリト帝其ノ答ヲ聞キ勸説恐嚇ノ益ナキヲ
 信リフエオフンヲ獄舎ニ繋カシメタリ
 成徳ナルフエオフンハ獄舎ノ中ヨリ書ヲ上リテ聖像ヲ拜ス
 ヘキヲ痛ク論セシカハ帝大ニ震怒シ士卒ヲ遣ハシテ成徳
 ナルフエオフンノ修道院ヲ毀テ其ノ弟子等ヲ悉ク追ハシメ
 タリ而シテフエオフンカ老衰スルノミナラス久シク病床ニア
 ルヲモ憐レマス酷ク之ヲ鞭撻シテ苦シムルノ後サモフラ
 キヤ島ニ流シタリシガ彼レ配所ニ至ル後幾クモナクシテ

世ヲ逝リタリ、
皇帝ノ死スル後四方ニ離散セルフェオフンノ弟子等又相集
リテ大邑修道院ヲ再建シケレハ主ハ奇蹟ヲ以テ榮セラル
、先師フェオフンノ聖軀ヲ遷シテ院中ニ安置セリト云

○我等ノ父ロマ府ノ「バーバ」聖問答者クリゴリイノ

傳同日

聖クリゴリイハ大約第六世代ノ半ロマ府ニ生レ其ノ父ハ
富貴ナル紳士ナリ且ツ此ノ一族ハ虔敬慈善ニシテ殊ニ他人
ニ勝レリ其ノ母シリワイヤハロマ教會ニテハ聖人ノ數ニ加
ヘリ傳ヘ云フ彼ノ親戚タルシルラカ將ニ死セントスル時

ハリストスカ自ラ彼ヲ永生ノ安樂ニ召シ玉フヲ見タリト
善良ナル教訓ト虔敬ナル軌範トハ少年クリゴリイノ心ニ
貫徹シ後、クリゴリイハロマ府知事ノ重職ニ擧ケテレタル
モ受ケスソ身ヲ獻シテ全ク主ニ奉事セント思ヒ初メテ召
キ被リシ使徒アシドレイノ名ニヨリテ自ラ建タル修道院
ニ入り修士トナリ己レノ財産ヲ以テ貧者ヲ扶助シ且ツイ
タリヤノ諸郡ニ修道院ヲ立ルカ爲メニ費シ而シテ自ラ貧シ
キニ安シ甚タ嚴シク齋ヲ守リテ常ニ斷間ナク祈禱ヲ爲シ
タリ
然レト久シク此ノ如キ身生テ爲ス可能ハザリキ其ノ道徳

ノ高キニヨリテ衆ノ望ヲ得、教會ノ事ノ爲メコンスタンティ
 ノーポリニ遣ハサレタリ斯クテ「パーバ」ペラギイカ死セシ
 後異口同音グリゴリイヲ撰舉シテペラギイノ後任トナサ
 ントセシカグリゴリイ固辭シテ其ノ職ヲ受ケズ書ヲ皇帝
 マウリキイニ上リテ此ノ撰舉ヲ確定セサランコトヲ請ヒ密
 ニ羅馬ヲ脱シテ山中ニ隠レタリ然レト彼レノ隱處ハ神ヨ
 リノ異ナル徴アリテ遂ニ發見セラレ尊トキ神職ヲ受ケザ
 ルベカラサルニ至レリ
 「パーバ」等ハ多ク此ノ世ノ尊榮ヲ受クルヲ願ヒ世事ニ於ケ
 ル己レノ權ヲ堅メントスルガ爲メ最モ尊キ使徒ノ代理者

タル責任ヲ忘ル、至リシカ聖グリゴリイハ此ノ如キ過失
 ナク身ヲ碎キテ會事ヲ理メ信者ノ魂ノ幸福ナランコトヲ務
 メタリ聖グリゴリイハ無量ノ謙遜ナルト神ト人トニ對シ
 ハ尤モ熱愛ナシハ常ニ己レノ權ヲ視ルコト難事ニ於ルカ如
 シ且ツ數々俗事ノ繁忙ナルニヨリ彼ヲノ默想ノ身生ヨリ
 遠サカラシムルヲ悲歎セシメタリ然レト銳意熱心、儼然ト
 シ己レノ責任ヲ尽シタリ此ノ時ニ當テロンゴバルト人屢
 々羅馬地方ニ侵シ入り加之ナラズ饑年打續キ惡疫流行セシ
 カ此ノ艱難ノ際ニアリテ聖グリゴリイハ國ヲ愛スルノ情
 甚々切ニシテ熱心撓マズ牧衆ノ爲メニ謀リタリグリゴリ

イノ所入ハ悉ク濟施ノ爲メニ費シ其ノ説教ハ艱難ニ逢フ
 人々ノ魂ヲ堅メ其ノ諭勸ハ敵ノ怒ヲ和ラケタルモ其ノ本
 職トシ務メシコハ神ノ言ヲ傳ヘ之ヲ講明スルコトナリ當時
 イタリヤノ諸郡ハ猶ホ邪神ヲ奉スル人々多キノミナラス
 信者中アリイノ異端ニ陷ル者多カリケレハ聖グリゴリイ
 ハ粉骨勉勵シテ真理ノ光ヲ以テ其ノ魂ヲ照光スルコトヲ務
 メタリシカハ神ハ其ノ所爲ヲ讚メタリブリタニヤ島(英國)
 ニ於テ異教人ノ多ク反正セシトハリストス教ノ堅立シメ
 ルハ聖「パトバ」ノ名ト借ニ後世ニ傳ハレリ
 ブリタニヤ島ニ神言ノ傳ハリシハ已ニ久シ傳ヘ云フ使徒

シモンシロトハ七十使徒ノ一人アリストウト共ニ彼
 ノ地ニ傳道シ第三四世代ノ頃ハ其ノ地已ニ「ハリスティア」ニ
 シ「多カリシト然レトアングリヤ」ハ後チ異教ヲ奉セシサリ
 シン人ニ征服セラレシカハ異教ヲ信スルゲブタルヒヤト
 稱セシ七侯國ニ分タレタリ故ニ「ハリスティア」ニシ「等」ハシト
 ランデヤ及ビ「ワリイ」ノ山中ニ避レ而モ數人ノ傳道士熱心
 勉勵シテ道ヲ傳ヘ特ニ第五世代ノ頃「イルランデヤ」ニ傳道
 シテ著名ナル「パトリキイ」ノ如キ人アルニモ拘ハラズハリ
 ストス教ノ弘布甚タ少ナカリキ
 聖グリゴリイハ嘗テ「パトバ」ノ位ニ舉ケラル、ヤ否ヤ必チ

アングリヤニ注キフラスニ居ルアングロサクソン人ノ
 少年數人ヲ教育シ、後其ノ郷里ニ神ノ言ヲ播告スル者ト爲
 ントセリ降生五百九十七年聖グリゴリイ意ヲ決シテ掌院
 修士アウクステインヲ長トナシ數人ノ傳道士ヲアングリヤ
 ニ遣ハサントシダリ然レトアウクステインハ危難ヲ恐レ此
 ノ事ニ任スルヲ快トセス遂ニ中途ヨリ歸リ此ノ危難ノ委
 任ヲ解カント「パーバ」ニ哀願セリ然レト聖グリゴリイハ
 之ヲ勵マシ之ヲ説諭シテ久シク己レノ夫ヲ反正セシメン
 ト焦慮スル所ノベルタ女王ニケント王エタルベルトノ
 夫人某ニ送ルノ書ヲ與ヘタリ是於テ「パーバ」カ遣ハシタリ

人々ハフランスヨリ數人ノ通辨ヲ伴ヒアングリヤニ至リ
 使者ヲノクント王エタルベルトニ云ハシメテ曰ク我等爾
 ニ最ト悦ハシキ報告ヲ持テ來レリ其ハ我等ノ言ヲ信スル
 者ハ限りナキ生命ヲ得ルトノ報告ナリト王ハ彼等ヲケ
 ントニ近キ島ニ居ルヲ命シ數日ヲ經テ王自ラ彼等ノ説ク所
 ヲ聞カンカ爲メ島ニ至リ當時ノ妄説ニヨリ幻術ヲ爲スヲ
 懼レ屋外ニアリテ相見タリ此ニ於テ傳道士等ハ神ノ言ヲ
 説キケレハ王ハ意ヲ注キテ其ノ言ヲ聽キ居タリシカ暫ク
 アリテ曰ク爾等ノ説ク所約束スル所甚タ善シ然レト此ノ
 説ノ如キハ我カ始テ聞ク所ナレハ我レ直ニ之ニ同意シテ

今ニ至ルマテ我カ臣民ト偕ニ久シク遵守セシ風ヲ廢スル能ハズ然レト爾等ハカク爾等ノ善トナシ眞理ト認ムル所ノ者ヲ我等ニ報告センカ爲メ遠路ヲ厭ハスソ來レリ故ニ我等ハ爾等ニ妨害ヲナスヲ欲セザルノミナラズ友愛シ好意ヲ以テ爾等ヲ待遇シ其ノ要求スル所ノモノヲ給與セン而ソ爾等ガ教ニ歸スルヲ欲スル者ハ我之ヲ禁セズト遂ニ命シテ傳道士等ヲカントルベリ城内ニ居ラシメタリ幾クモナクシテ傳道士等ノ説教ト潔ヨキ行ハ衆クノ人々ヲ主イエイススハリストスニ歸セシメタリ斯クテエテルヘルト王モ次テ洗禮ヲ領ケシカハ是レヨリ

シテハリストス教ハ忽チ國中ニ公布セリ後チアウクスタインハ大主教ニ舉ケラレシカ聖行ト數多ノ奇蹟トヲ以テ其ノ名尤モ著レタリ聖グリゴリイハ已ニ着手セシ事業ノ好結果ヲ顯ハセシヲ見テ益々其ノ隆盛ヲ計カリ積多ク工少シト云ヒ送リシアウクスタインヲ助クルガ爲メニ數人ノ傳道士ヲ遣ハシ且ツ數章ノ旨深キ教訓ヲ送リタリ聖グリゴリイハ少年ノ時ヨリノ身体軟弱ナルモ常務ノ妨ヲナスヲナク多クノ書ヲ著ハシ聖書ヲ註シ祈禱文ヲ作りイタリヤノ諸聖人ノ傳、奇蹟ノ叢談等ヲ著ハシ是ニ因テ二言者或ハ問答者ノ稱ヲ得タリ而シテ聖グリゴリイノ時ニ至ルマテハ

預聖々賜ノ聖體禮儀ハ唯口傳ニヨリテノミ行ハレタルモ
 彼レ之ヲ脩正シテ定メリト云フ人アリ
 聖グリゴリイハ不幸ナル人々ニ對シ最ト仁慈深クシテ每
 月一日ニハ必ズ金錢物品ヲ貧者ニ頒與シ屢々病者ヲ訪ヒ
 且ツ宴ヲ設ケテ困究ノ人々ト乞丐ヲ招キ大ニ謙リテ自
 之ニ給事セリカ、ル故ニ一ノ美談ヲ傳ヘリ曰ク彼レ聖使
 徒アンドレイノ修道院ニアリテ修士タリシ時、人アリ涙ヲ
 垂レテ曰ク我ハ元ト船主ナリ會々海上、颶風ニ逢ヒ全船沈
 没シテ尽ク積ムトコロノ貨物ヲ失ヒケレハ荷主ニ贖フニ
 由ナシトグリゴリイ之ヲ憐レニテ金貨六個ヲ與ヘタリ時

未タ幾クナラサルニ其ノ人又來リテ曰ク神ノ僕ヨ我ヲ恤
 レメヨ爾我ニ與フルコト少ウシテ我カ失フトコロ甚ク多シ
 トグリゴリイ又六金ヲ與ヘタルモ其ノ人又來リテ曰ク我
 レニ借財多シ我ヲ助ケヨトグリゴリイ已ニ財皆尽キケレ
 ハ此ノ不幸ナル人ニ銀盤ヲ與ヘタリ多年ヲ經テ後グリゴ
 リイ已ニ大主教タリシ時或ル日僕ニ命ノ貧シキ旅客十二
 人ヲ爲メニ筵ヲ備ヘシム席定マリシ后グリゴリイ之ヲ見
 レハ貧者ハ十二人ニ非スシテ十三人ナリシカハ怪ミテ家
 宰ヲ召ヒ之ヲ問ヒケルモ十二人ノミ食セリト云ヒ而シテ
 リゴリイノ外他人ニハ他ノ一人ノ客ハ見ヘサル也筵了リ

衆客散シテ後グリゴリイ獨リ見ルトコロノ者ニ近ヅキ其ノ名ヲ問ヒケレハ彼レ答テ曰ク何ンスレヅ我カ名ヲ問フヤ甚タ怪ム可シトグリゴリイ豁然トシテ是レヨリ先キ貧者トナリグリゴリイノ仁慈ヲ試ミ其ノ後常ニグリゴリイノ身ヲ離レズシテ守リシ所ノ守護ノ神使ナルヲ悟リシカバ直ニ地ニ伏シテ主神ヲ讚揚シタリト云フ

大主教グリゴリイロマ教會ヲ治ムルヲ十二年半ヨシテ歴史上、聖大グリゴリイノ名甚タ著ルシ降生六百零四年安然トシテ遠逝セリト云フ

○王城ノ總主教表信者、聖ニキホルノ聖經選座式

廿五日

聖ニキホルハ第七聖全地公會ニテ斥像ノ異端闕除セラレシ數年ノ後降生八百零六年ニ王城ノ總主教ニ舉ケラレタリニキホルハ碎身粉骨ノ當時都下ノ風俗ノ衰ヒタルヲ矯正シ僞教ト強迫トノ爲メニ到ル所ニ起リシ騒動ヲ鎮メテ安和平康ナラシメンヲ務メ且ツ學務ニ從事ノマウリキ

イ帝ヨリイリナノ子コスタンティン帝ノ時ニ至ルマテノ教會歴史ヲ編ミ且ツ書ヲ著ハシテ教會定理ヲ保護シタリ

此ノ時聖像ヲ輕視セシ殘酷ナル窘逐者アルミヤノ人レオ帝位ニ在リ總主教ヲ己レニ左袒セシメント欲セシニ事

ニキホル儼然トメ答テ曰ク帝ヨ爾ノ勤勞ハ無益ナリ我等
 ハ古傳ヲ變ズル能ハズ爾我等ノ十字架ト福音ヲ尊フガ如
 クニ聖像ヲモ尊フベシ云云ト論シタレト帝ハ之ヲ聽カズ
 シテ國中到ル處ニ聖像ヲ尊フ者ヲ大ニ窘逐セリ聖ニキホ
 ルハ難ニ逢フ者ヲ慰メ勵マシ眞理ニ固メテ聖教會ノ古傳
 ナ守ラシメ且ツ論シテ曰ク爾等群少ナルヲ以テ懼ルハ一
 ハカレ蓋シ爾等ノ父ハ爾等ヲ祝シテ天國ヲ玉ハントスレ
 ハナリト帝ハ聖ニキホルカコンスタンティノールノ總主教
 タル間ハ斥像ノ說ヲ固ムル能ハザルヲ悟リ公會ヲ開キ己
 レノ同意者ヲ會ノ總主教ヲ除黜シ命ヲ下シテプロコニス

島ニ配流シタリ聖總主教ハ配所ニ在リテ猶教會ノ爲メニ
 種々苦慮シ教會ノ規則ヲ保護セシカ遂ニ降生八百十八年
 ニ世ヲ逝リタリ

聖ニキホルノ死セシ後二十年ヲ經テ斥像ノ說全ク絶エシ
 時王城ノ總主教聖メホデイハ皇后フオドラヲ勸メテ苦難
 者ノ聖軀ヲコンスタンティノールニ遷シ儀ヲ盛ニシ聖使
 徒ノ聖堂ニ安置セシト云フ

○成徳ナルワエチデントノ傳 廿六日

西方ニ修道ノ盛ナルニ至リシハ東方ニ較フレハ尤モ遅シ
 而シテ西方修道ノ著明ナル創立者ハヌールシヤノ聖ワエチデ

シトニソ彼レ始メテ西方修道ノ規則ヲ制定シ而メ西方ノ
 修道院、尽ク之ニ法ヲザルハナシ成徳ナルヲエテディクトハ降
 生四百八十年ノ頃イタリヤノ小邑ヌールシヤニ生レタリ
 幼ニソロマニ遊學シ學校ノ教授、學生等カ品行不正ナルヲ
 見テ大ニ之ヲ厭ヒ遂ニ世ヲ棄テ十六歳ニソロマニ程近キ
 (ロマヲ距ル四十里)スピアコノ曠野ニ遯レ洞窟ノ中ニ居リ
 テ靜然孤棲シ人之ヲ知ルナク獨リ一修士アリテ彼レガ爲
 メニ粗食ヲ贈ルノミ彼レ恒ニ祈禱シテ以テ心情ノ騒動ヲ
 制止シ勤勞窮乏ノ間ニ隱士ノ行ヲ磨キ徳ヲ修メタリ斯ク
 三年ヲ經テ始テ一牧者ノ知ルトコロトナリ大ニ敬戴セラ

レシカ神ハ彼ニ殊恩ヲ賜ヒシカハ彼ハ靈智ニシテ諸病ヲ
 痊スノ力アラハレタリ斯クテ成徳ナルヲエテディクトノ名四
 方ニ著シカリケレハ隱士等其ノ教訓ヲ受ケントテ群集シ
 隣ナル修道院ノ教士等ハ彼等ノ爲ニ其ノ修道院ノ掌院ト
 ナランヲ請ヒタリシモ成徳ナルヲエテディクトハイタリヤ
 地方ノ教士ノ品行行爲ノ未タ完然ナル点ニ達セザレハ己
 レノ嚴肅ナル規律ノ兄弟カ意ニ適セザルヲ預メ知リテ之
 ナ諾ハサリシカ後彼レ院長トナリシ時、實ニ其ノ思ニ違ハ
 ザリシ聖ヲエテディクトハ漸クニソ院中ノ規則ヲ嚴ニシ益々
 行ヲ修メシメントシタル時、教士等果シテ厭ヒ人アリ彼

毒殺セントスルニ至リシカ毒ヲ盛リシ杯ハ成徳ナルワ
 子ディクトトカ十字ノ号ヲ其ノ杯上ニ書スルヤ忽然トシテ破
 レケレハ其ノ意ヲ達スル能ハスワエチディクトハ其ノ毒殺セ
 ントセシ人々ヲ免シタルモ掌院ヲ辞シテ先ニ孤棲セシス
 ピアコノ曠野ナル洞窟ニ避ケタリ然レト敬虔ナル人々其
 ノ教訓ト誘導トヲ以テ已レテ裨益セントシ其ノ洞窟ノ傍
 ニ遷居スル者日ニ多キヲ加ヘタレハ今ヤ靜然孤棲ス
 ル能ハザリキ斯クテ漸々一院ニ教士十二人ヲ容ル修道院
 十二ヲ設立スルニ至リ各院皆大智ヲ以テ人ヲ教諭シ且ツ
 大ナル奇蹟ヲ行フ聖ワエチディクトヲ敬戴シテ掌院トナシタ

茲ニ不虔ナル司祭フロレンタイナル者アリ成徳ナルワエチ
 子ディクトトノ名日ニ高ク月ニ揚ルヲ妬ミ兄弟等ヲ煽動シテ掌
 院ニ背カシメ聖ワエチディクトヲシテ意ヲ決シ去テ他方ニ至
 ラジメントスルニ及ヒシカハ聖ワエチディクトハイタリヤノ
 南境カムパコヤニ至リタリ此ノ地ハ無智野蠻ナル異教ノ
 民ノ蕃殖セシ地ナレハ正教ノ何物タルヲ知ラズシテ偶像
 邪神ヲ奉ゼシカ成徳ナルワエチディクトハカツシノノ山地ヲ愛
 シ此ニ遷リシカハ幾クモナクシテ數人ノ修士來リテ同
 ク其ノ地ニ居レリ

此ノ時、山上森林ノ中ニ偶像アボルロンノ祠アリケレハ人
 民皆之ニ献祭セリ成徳ナルワエデイクトハ森林ヲ伐リ献祭
 ニ來レル人々ニ正教ノ眞理ヲ説キ多クノ人々ヲハリスト
 スト歸セシメ遂ニ祠ヲ毀テ此處ニ授洗イオアンノ名ニ
 ヨリテ聖堂ヲ建立セリ幾クモナクシテ多クノ隱士等集ヒ
 來リテ著明ナル修道院ヲ創設シ歳、月ニ隆盛ニ至レリワエテ
 デイクトハ兄弟ノ爲メニ規則ヲ制定セシカ此ノ規則ハ西方
 ノ修道院ニテ用ウル者多クノ後世ニ至ル迄ワエデイクトノ
 規則ト稱シ著ルシ成徳ナルワエデイクトハ兄弟等ヲ己レ
 ニ克テ恒ニ神ヲ思念シ聚居ノ勤勞ヲ爲サシメ貧者旅客ニ

賑ハシ且ツ子弟ヲ教導シテ寫本ヲ爲サシメタリ斯クテワエ
 テイクトカ修道院ノ兄弟等ハ掌院ノ死セシ後モ堅ク其ノ
 規律ヲ守リ他ノ修士ニ較フレハ學事ニ従事セシトソ
 成徳ナルワエデイクトノ榮名ヲ聞キテ訪ヒ來ル者日ニ月ニ
 多キテ加ヘ野蠻民ノ王トテルモ彼ヲ訪ヒシカ聖ワエデイク
 トハ其ノ惡業ヲ責メ預シメ其ノ死期ヲ告ケタリト云
 成徳ナルワエデイクトハ死期ノ數日前ニ死ノ近ツクヲ悟リ
 欣喜極リナク遂ニ安然トシテ降生五百四十三年ニ世ヲ逝
 リタリ
 彼レカモンテイカッシノニ立テシ修道院ノ如キハイタリヤ中

ノ著名ナルモノ、一トシテ今ニ至ルマテ存セリ

○二十七日

此ノ日聖教會ハディオクリティアンノ時、窘逐セラレ難ヲ受ケ
シ聖致命者アカビイ、プープリイ、ティモライ、二人ノアレキサ
ントル、二人ノディオニシイ及ヒ聖致命者コカンドルヲ記念
セリニカンドルハ酷タ残忍ナル窘逐ノ時、獄舎ニ至リ囚者
ヲ慰藉シ致命セシ人々ノ亡体ヲ葬リ之ニヨリテ捕ハレタ
ル人也當時正教ノ爲メニ力ヲ盡スハ政府ノ嚴禁ニシテ凡
テ「ハリステイア」等ノ遺骨ハ猛獸野鳥ニ食ハシメシカニ
カンドルハ之ヲ葬リシ故ニ屢苦責ヲ受ケディオクリティアン

ノ時遂ニ死刑ニ處セラレタリト云

○二十八日

此ノ日七十使徒ノ一人聖アリシトウルヲ記念セリ彼レハ
キトブル島ノ人ニシテ聖使徒ワルナワノ弟ナリ聖使徒バ
ウエルロマニ送ルノ書ニ彼ノ「ヲ」ヲ記載セシカ其ノ傳詳カナ
ラズ或ハ云フ彼レ「フリタニヤ」ニ傳道シ彼處ニテ致命セリ
ト云フ
○此ノ日又ディオクリティアンノ時エギペトニ在リテ難ヲ受
ケシ聖致命者サウインヲ記念セリ

○我等ノ父、神ノ人成徳ナルアレキセイノ傳廿九日

第四世代ノ終リノ頃、アルカダイ、ゾノリイニ玉ノ時、マコ
 エウフイミアント云ヘル紳士アリ其ノ妻ヲアグライダト云
 へリ二人、仁善虔敬ニシテ銳意、神ノ誠命ヲ守リ常ニ貧民乞
 丐ヲ恤レミ日々宴ヲ設ケテ窮民、鰥寡、孤獨、旅客ヲ惠ミタリ
 シガ若シ來者少ナキ時ハエウフイミアン大息シテ曰ク吾レ
 我カ神ノ地ヲ行クニ耐ヘズト衆皆此ノ二人ヲ敬愛シ且ツ
 何不足ナキ身ナリシモ常ニ子ナキヲ憂ヒ老後ノ慰樂トナ
 サントスルノ子ヲ賜ハンコト主ニ祈リケレバ神ハ其ノ祈
 禱ヲ許シ一子ヲ賜ヒシカハ二人大ニ喜テアレキセイト名
 ツケタリ

良善ナル父母ハ如何ニアレキセイヲ愛セシヤ彼ヲ養育ス
 ルニ如何ニ心ヲ用シヤ彼レヲ善良敬虔ナラシメンガ
 爲メニハ如何ニ辛勞セシヤ其ノ心想フヘシ後アレキセイ
 ハ全ク父母ノ恩ニ報井タリアレキセイハ穎才衆ニ秀テ好
 テ書ヲ讀ミ弱年ノ時ヨリ至心、主ヲ愛シ神ノ祝スル所トナ
 ラシガ爲メ窃ニ節儉嚴齋ヲ守リ身ニ弊衣ヲ着ケ神ヲ愛ス
 ルコト一日ヨリ熱切ニメ主ニ奉事センカ爲メ修士ト爲リ
 世ノ諸ノ樂ヲ棄テントセリ然レト父母ハ之ヲ悦ハズ稍、壯
 ナルニ及テ王族ノ女ニシテ絶世ノ佳人ヲ擇テ其ノ配ト爲シ
 タリアレキセイハ顯ハニ父母ノ命ニ違フヲ欲セサルモ世

チ棄ツルノ念、已テニ深ク其ノ心中ニ銘セシ故禮畢リ新郎
 新婦室ニ入リシ時、アレキセイ婦ニ金環及ヒ錦繡ノ帯ヲ與
 ヘテ曰ク汝宜シク之ヲ守レ神ハ我ト爾トチ保ツト他ナカ
 ルベシト云ヒ終リテ室ヲ出テ己レノ舍ニ錦衣ヲ脱シテ敝
 衣ヲ着ケ若干ノ資金ヲ携ヘ竊ニ父母ノ家ヲ脱シ遁レテ海
 岸ニ至リテラオデイヤニ航セントシテ船ニ乗リ船中主ニ祈
 リテ曰ク我ヲ世塵ニ救ヒ我ヲ諸聖人ト與ニ審判ノ日ニ
 於テ爾ノ右ニ立ツチ得セシメヨト終ニラオデイヤニ至リ
 上陸シテ他ノ巡拜者ト偕ニメソポタミヤノエデッサ城ニ至
 リ救主ノ眞像ヲ拜シ譯者曰ク救主ノ名聲四方ニ洋溢シ而

猶太人彼ヲ嫌惡スルチキ、已レノ居城エアッサニ至ラシ
 ナ請ヒ若シ能ハサレハ其ノ肖像ヲ寫シ來ル可キヲ命シ一
 番エチノ書ヲ携ヘ到ラシム救主之ニ答フルニイスラエリ
 ノ亡羊チ教フ可キチ以テシ自ラ巾ヲ取テ己レノ面ニ當テ
 肖像ヲ寫メアワガリニ賜ヒシ聖ナル眞像携ヘシ所ノ資金
 ナリ其ノ詳ナルハ八月廿六日ヲ見ル可シ
 ナ以テ貧キ人々ニ頒チ自ラ乞丐トナリ聖母ノ聖堂ノ傍ニ
 居リ他人ノ施チ得テ自ラ養ヒ日夜祈禱シテ主日毎ニ聖体
 ナ領シタリ
 家事ヲ治メ妻子ヲ養育スルハ吾人ノ本分ニシテ神亦我等
 ノ之ヲ爲サント好ミセリ然ルニ神ハ獨リ人心ヲ洞知シ
 人、何ノ心ヲ以テ行フカヲ觀察シ眞ニ主ヲ愛スル意ヨリ出
 テタル事ハ主皆之ヲ祝セリアレキセイ己レノ父母ヲ離レ

世ノ累ヲ棄テ最モ困難ナル犠牲ヲ以テ神ノ祝ヲ受ケント
 シ彼レ清貧ニ世ヲ送ラントシテ喜テ富貴ヲ棄テ世ノ歡樂
 ナ謝絶シ神亦其ノ志ノ清廉ナルヲ以テ其ノ犠牲ヲ受ケタ
 リ然レトアレキセイノ父母ハ慈傷限リナク人ヲ偏チク
 城中及ヒ諸方ヲ尋テシムルモ見ヘザレハ母ハ戸ヲ閉テ悲
 歎流涕シテ曰ク我カ至愛ノ子ノ消息如何ヲ聞カザレハ吾
 レ必ス此ノ室ヲ出テ去且ツ我レ生クルヲ欲セストアレキ
 セイノ妻モ母ノ傍ヲ去ラスシテ偕ニ閉居シ二人慟哭シテ
 止マサリケリエウフミアンハ僕ヲ遣シテ四方ノ城邑ヲ周
 リアレキセイヲ求索セシニ一僕エブサ城ニ至リアレキセイ

イガ乞丐ト共ニ聖堂ニ至ルニ逢フモ其ノ郎君タルヲ知ラ
 スト他ノ乞丐ト共ニ之ニ施シタリシカハアレキセイハ其
 ノ家僕ナルヲ知リ大ニ謙リテ僕ノ手ヨリ施ヲ得タルヲ喜
 ヒタリ

アレキセイ聖母ノ聖堂ノ傍ニ居ルヲ十七年ニシテ其ノ謙遜
 無量ナルト恒ニ祈禱スルニヨリテ神ノ喜フ所トナレリ聖
 母夢ニ一ノ堂役者ニ顯ハレテ曰ク宜シク神ノ人ヲ導テ我
 カ堂中ニ入ルベシ蓋ハ彼ノ祈禱ハ神ノ聖前ニ達シ且ツ聖
 神其ノ上ニ降臨スル猶ホ帝王ノ頭ニ冠ヲ戴クカ如クナレ
 ハナリト堂役者覺テ後其ノ誰タルヲ知ラサリシガ聖母再

タヒ顯ハレテ堂傍ニ坐スルノ乞丐ヲ指シケレハ堂役者ハ
 アレキセイヲ導テ堂中ニ入りタリ是レヨリシテ衆大ニ彼
 ニ畏服シテ敬禮ヲ加ヘケレハアレキセイハ人ノ敬ヒ尊ト
 フ所トナルヲ欲セスシテ竊ニ城ヲ出テキリキヤニ到ラン
 トスル船ニ乘リ海ニ航シ彼所ニ至リ聖使徒ハツェルノ聖堂
 ノ傍ニ棲マントセシカ其ノ意ヲ達スル能ハサリキ蓋ハ海
 ニ航セシ時、偶々颶風起リ船、振蕩シテ波濤ノ爲メニ流サレ
 其ノ港ニ到ルヲ得ス數日ヲ經テイタリヤノ海岸ロマノ近
 傍ニ漂流スレハ也此ニ於テアレキセイハロマニ歸リ父母
 ノ家ノ傍ニ住マントシ行テ父母ノ家ニ近ツキシニ其ノ父

カ多クノ家僕ヲ從ヘテ聖堂ヨリ歸ルニ逢ヒアレキセイ進
 ミ近ツキ其ノ前ニ伏拜シテ曰ク主ノ僕ニ卑賤ナル我ヲ憐
 レミテ爾ノ家ノ一隅ヲ貸シ爾ノ机下ノ餘屑ヲ賜ヘヨ神ハ
 福ヲ爾ニ降シテ天國ヲ賜ハン且ツ若シ骨肉ノ遠國ニ在ル
 者アラハ彼レ必ス恙カナク還ルヲ得ントエウフィミアン其
 ノ言ヲ聞キ愛子ノイキ回想シ涕ヲ垂レ其ノ請ヲ許シ命シ
 テ邸内ニ在ル一廬ヲ與ヘ且ツ諸僕ヲ顧ミテ曰ク誰レカ汝
 等ノ中此ノ人ノ爲メニ慮カリ我カ食ヨリ食ヲ與ヘン者ソ
 我レ必ス之ヲ賞セント
 斯クアレキセイハ父母ノ家ノ門下ニ住ムモ十七年ノ永キ

星霜ヲ卑賤勞苦ノ間ニ送リ容貌大ニ變シケレハ雖レ一人
トシテ彼レヲ知ル者ナカリキ一僕、日々、父ノ命ニヨリ食ヲ
彼レニ與フルモ之ヲ他ノ乞人ニ頒チ自ラ餅ト水トヲ以テ
足レリトシ日夜祈禱シテ主日コトニ聖体ヲ領シ大ニ謙遜
シテ貧賤ヲ忍ヒ常ニ僕婢ノ辱ヲ受ケ或ハ時トシテハ手擧
セラレタリ加之ナラスアレキセイカ居ル所ノ廬ハ母ノ室
ニ近クソ母ト妻トノ室ニ對セシユヘ母妻己レヲ慕フテ歎
キ悲シムノ聲、聞エケレハ彼ノ爲メニ最モ忍ヒ難キコナリ
然レト彼レ身ヲ以テ犧牲トナシ始終、心ヲ變セスシテ己レ
ノ志ヲ遂ケタリ斯クテ復タ十七年ノ星霜ヲ過キシ後神ハ

アレキセイニ告クルニ死期ノ方サニ近キニ在ルヲ以テセ
リアレキセイ僕ニ請フテ筆紙ヲ借り其ノ妻ニ金環衣帶ヲ
與ヘ父母ノ家ヲ去リシ時ヨリ今ニ至ルマテノ生涯ヲ記載
シ父母及ヒ妻ニ免シテ請フテ曰ク我カ父母及ヒ我カ妻ヨ
願フハ吾ヲ怒ルナカレ我レ亦爾等ノ悲歎ヲ見テ心ヲ痛メ
常ニ神ニ爾等ニ忍耐ヲ玉ヒ爾等ヲ其ノ天國ニ入レシメ玉
ハンコヲ祈リ而シ我カ祈禱ハ神ノ容ス所トナラシコト信
モリ蓋シ我レ斯ク爾等ニ無慈悲ナルト己レヲ處スルノ嚴
ナルハ主ヲ愛スルニヨレハナリト書キ終リテ日夜祈禱止
ムコナク其ノ死期ノ至ルヲマナシ居タリ

傳へ云フアレキセイカ死期ヲ待ナシ時ニ當テ「パーバ」イン
 ノケンテイイ聖堂ニテ祈禱ヲ爲シゴノリイ王モ亦來拜セシ
 カ其ノ將ニ終ラントスル時、堂中ニ聲アリ曰ク神ノ人ニシ
 テ靈ト肉トノ離レントスル者ヲ索メヨ是レ衆生ノ爲メニ
 祈禱スル者ナリ」ト衆皆戰^テキ慄レテ此ノ言誰レチカ指スチ
 知ラサルナリ次日ニ至リ徹夜ノ祈禱ヲ爲ス時、復タ聲アリ
 曰クエウフイミアンノ家ニ至リテ神ノ人ヲ索メヨ」ト時ニ王
 ハエウフイミアンチ顧ミテ曰ク爾ノ家ニ神ノ人アリ爾何ソ
 ヲ明カニ我ニ告ゲザル」トエウフイミアン曰ク神ハ其人ヲ識
 ルモ我ハ此ノ言何人ヲ指セシチ知ラザルナリ」ト因テ家宰

チ召シテ問テ曰ク衆僕ノ中、特ニ敬虔ニシテ仁善ナル人ア
 リヤト然レト家宰モ亦誰チモ指スヘキ人アラザリキ
 王及ヒ「パーバ」親カラエウフイミアンノ家ニ至リ之ヲ尋チン
 ト爲シケレバエウフイミアンハ之ヲ迎ヘンカ爲メ速ニ家ニ
 歸リ燭ト香トヲ取り禮ヲ備ヘ出テ之ヲ迎ヘシ時常ニアレ
 キセイイノ食事ヲ司サトリタル僕、遽シクエウフイミアンカ王
 及ヒ「パーバ」チ迎ヘタル客室ニ入り來リエウフイミアンニ告
 ケテ曰ク我カ主ヨ爾、我ニ命セシ乞丐ハ是レ神ノ人ニハア
 ラズヤ蓋シ彼レ常ニ徹夜祈禱シ最ト嚴重ニ齋ヲ守リ偶々
 罵詈誶謗セラル、トアルモ常ニ謙遜シテ之ヲ忍ヒ受ケリ」

トエウフミアン直ニ起テアレキセイカ居ル所ノ廬ニ至リ
 テ窓ノ外ヨリ之ヲ召フ一再三ナルモ答ヘザレバ廬ニ入り
 之ヲ見ルニアレキセイハ面ヲ掩ヒ遺書ヲ手コシテ既ニ生
 息絶エ居タリエウフミアン其ノ面ヲ開キ之ヲ見レハ煌々
 タル異光アリテ其ノ顔ニ輝キ而シテ其ノ書ヲ取ラントスル
 モ手ヨリ之ヲ放タス
 エウフミアン室ニ歸リ王及ヒ「パーバ」ニ告テ曰ク我レ今求
 ムル所ノ者ヲ得タリ然レト彼レ已ニ死セリト是ニ於テ王
 ハ美榻ヲ設ケアレキセイノ屍ヲ弊廬ヨリ移シテ其ノ上ニ
 安置シ衆ヲシテ其ノ前ニ跪キテ之ヲ拜セシメタリ

王ハ死者ノ手ヨリ書ヲ取り衆ニ向テ讀ミ下シケレハ衆皆
 耳ヲ傾ケ默ソ之ヲ聽キタリシカエウフミアン忽チ死者ノ
 誰タルヲ知り大ニ愕キ地ニ伏シ其ノ屍ニ接吻シ泣テ曰ク
 嗚呼我カ愛子ヨ爾何ノ故ニ我等ヲ久シク悲歎セシムル
 ヤ爾多年我カ家ニ在リテ父母ノ悲ミヲ見ルモ何ソノ之ヲ
 慰メサルヤ今ヤ何ヲカ爲スヘキ爾ノ死ヲ哀シムヘキ乎將
 ク爾ニ逢テ喜フベキ乎ト母アグライダ及ヒアレキセイノ
 妻ハ悲慟哀哭ノ聲ノ喧シキヲ聞テ何事ナラント思ヒシニ
 豈ニ料ランヤ死セシ乞丐ハ實ニ其ノ久シク悲歎痛哭セシ
 所ノアレキセイナレハ室ニ出テ群カル人々ヲ別ケ進ミ其

ノ屍ヲ抱キテ痛哭セシカバ衆人ハ彼等カ其ノ深ク悲ムヲ見テ一人トシテ泣カサル者トテハナカリケリ
 王及ヒ「パーバ」ノ命ニヨリテ屍ヲ安置セシ榻ヲ市ニ出シケレハロマノ住民ハ皆出テ主ヲ愛スルカ爲メ世ノ諸ノ歡樂ヲ犠牲トナシ貧困憂苦ノ間ニ神ニ奉事センカ爲メ世ノ幸福ト富貴トヲ棄テシ神ノ人アレキセイノ聖軀ヲ拜シタリ
 現今猶ホロマ府中ニエウフィアンノ邸趾ニ建立セシ聖アレキセイノ聖堂存セリト云

○我等ノ父イエエルサリムノ大主教聖キリールノ紀念三十日

聖キリールハコンスタンティンノ大帝子コンスタンティン帝カ在位ノ時イエエルサリムノ大主教ノ神職ニ擧ケラレタリ此ノ時ニ當テアリイノ異端大ニハリストス教會ノ平安ヲ動カシタルカ帝ハ元ヨリ岐教ヲ信シケレハ勸メテ之ヲ全國ニ公布セントセリ然レト聖キリールハ堅ク眞理ヲ守リテ銳意之ヲ傳ヘタリ
 聖キリールノ大主教タリシ時降生三百五十一年五月十九日イエエルサリムニ於テ主ノ十字架ノ天ニ顯ハルノ休徴アリ聖キリールハ全イエエルサリムノ住民及ヒ聖城ニアル多クノ巡拜者カ目撃シタル休徴即チゴルゴワトエレオン山

ニ跨カリテ燈々タル十字架ノ顯ハル、ト述ヘ且ツ之ヲ見
タル人々一ハ戰レ慄ギ一ハ欣喜シテ聖堂ニ集マリ同音ニ
神ニ祝謝セシヲ帝ニ上申シ以テ帝ノ心中ニ眞實ノ虔敬
ノ感情ヲ起サシメント欲セシカ其ノ勸言モ遂ニ益ナク幾
クモナクシテ帝ノ怒ニ觸レイエルサリムヨリ逐ヒ出タサ
レタリ

此ヨリ先キイウデヤ地方大饑饉アリシカ聖キリールハ貧
シキ人々ノ饑渴ニ迫マルヲ見テ大ニ之ヲ憐レミ己レノ財産
ヲ悉ク擲テ貧者ヲ扶助シタレト其ノ財産ハ素ヨリ多カ
ラサレバ忽チコシテ皆ヲ尽キ一モ餘ス所ナケレハ教會ノ

寶物、珍器、錦繡ノ祭服ヲ賣却シ其ノ金ヲ以テ貧者ヲ濟ハン
トセリガク神意ニ適ヒシ事業ハ却テ帝ノ怒ヲ買フノ端ト
ナリタリ蓋ハ聖キリールハ王宮ニアル諸臣トアライ黨ノ
主教等ニ歡心ヲ得ザレハナリ
彼等ハ帝トセレウキヤ會ノ諸父ヲ煽動シテ聖キリールノ
職ヲ奪ヒ遂ニ之ヲ放逐セリ
多年ヲ經テ已コユリアン帝ノ時ニ至リ宗教自由ノ命ヲ出
シ總テ宗教ノ爲メニ流サル、人々ヲ配所ヨリ召ヒ還シケ
レハ聖キリールモイエルサリムニ歸ルヲ得タリ
ユリアン帝位ニ在ルヲ久シカラザルモハリストス教ヲ亡

ホシ異教ヲ起サントシテ「ハリステイアコン」ヲ忌嫌シ思ヲ焦シ謀ヲ運ラン務テ其ノ弘布ヲ妨ケ「ハリステイアコン」ノ學校ヲ閉チ聖堂ノ歳入ヲ没収シテ其ノ金ヲ以テ異教ノ神殿ヲ修飾シ學校病院ヲ神殿ノ傍ニ建築セリユリアン帝ハハリステイアコンノ教ヲ信セザルカ如クイウデヤノ律法ヲモ信セザレトス

「ハリステイアコン」ヲ敵視スルガ故、之ニ保護ヲ加ヘ而シテ「ハリステイアコン」ヲ攻撃シ預言ノ真ナラザルヲ辨明セント欲シテ「イエエルサリム」ノ破毀セラレシ聖殿ヲ舊觀ノ如ク高壯美麗ニ再營セントシ久シキ間、四方ニ離散流浪セシ「イウデヤ」人ヲ召集セリ蓋ハ「アドリアン」帝ノ時「イウ

デヤ」人蜂起セシヲ以テ彼等ノ「イエエルサリム」ニ居ルヲ禁シ「イエエルサリム」ヲ改メテ「ユリアン」ト稱シタレハナリ

後「コンスタンティン」大帝又之ヲ「イエエルサリム」ト稱シタルモ「ハリステイアコン」ノ隆盛ナル時ヨリノ聖城「ハイウデヤ」人ノ嫌忌スル所トナリ而シテ「ハリステイアコン」ノ靈所トナレリ是レニヨリテ「ユリアン」帝ノ命令一タヒ出タルヤ四方ノ「イウデヤ」人大ニ喜ヒ其ノ募リニ應シ群ヲ爲シテ「イエエルサリム」ニ至リタリ蓋ハ彼等ハ聖殿ノ再營ト與ニ異教ノ管下ヲ脱シテ恢復ノ望アレハナリ各人皆聖殿ヲ建ルカ爲メニ其ノ財

産ヲ分テ出金シ婦女子ハ珍貴ノ指環、首飾ヲ献シ人皆奮フ
 テ此ノ聖役ニ從事セツトシユリアン帝モ巨額ノ金員ヲ出
 シテ之ヲ助ケ一人ノ官吏ヲ遣ハシテ其ノ工事ヲ督セシメ
 工事竣ル時ハ帝自ライウデヤ人ト偕ニ成工ト勝テ「ハリス
 ティアノン」ニ制スルヲ感謝センガ爲メ主ナルサワオフハ祭
 ヲ献セントゼリ
 ユリアン帝ベルシヤ人ヲ遠征スル時イウデヤ人ニ詔ソ曰
 ク我カ爲メニ戰勝ヲ祈レ凱旋ノ日イエルサリムヲ舊觀ニ
 復シ大ニ祭典ヲ設ケテ神ニ感謝セント
 カクデイウデヤ人等ハ帝ノ保護ヲ受ケテ大ニ力ヲ得、益々

「ハリスティアノン」ヲ忌ミ嫌フテ之ヲ誹謗セシカハ「ハリスティ
 アノン」等ハ大ニ落膽セシモ聖キリールハ彼等ヲ勵マシ安
 然トシテ將來ノ如何ヲ察シ聖殿再建ノ工成ラスシテ預言
 必ス應スルヲ確信セリ
 時ニイウデヤ人等ハ熱心ニ役ニ従ヒ先ノ聖殿ノ趾ヲ治メ
 基礎ヲ置カントシタル時、忽然風雨吹キ降り天地鳴動シテ
 集メシ所ノ石材ヲ散シ諸器械ヲ破リシカハ工人死スル者
 甚ク多シイウデヤ人大ニ驚キ一時四方ニ離散セシモ幾ク
 ナラスシテ又集マリ工事ニ着手セシガ前回ニ較フレハ最
 ト甚シク地震ヒ烈風大雨吹キ來リテ舊殿ノ石基ニ至ルマ

テ尽ク之ヲ拔キ之ヲ崩シ加之ナラズ火焰ヲ噴出シ工人ヲ
 燒殺シテ其ノ体及ヒ衣服ニ十字架ノ号ヲ印シ先ニ光アリ
 テ後黒色ニ變シタリト云フ、カクシテ此ノ殿、石ヲ石上ニ置
 カズトノハリストスノ預言ノ應スルヲ致セリイウデヤ人
 ハ此ノ奇蹟ヲ見テ大ニ驚キ其ノ工事ヲ止メサルヘカラサル
 ニ至リ而シテハリストスノ力ヲ認メテハリストス教ヲ受ク
 ル者多カリキユリアン帝之ヲ聞キ大ニ震怒シ殿ヲ建ルヲ
 止メ聖キリールチイエルサリムヨリ放逐セリ
 ユリアン帝死セシ後、聖キリールハ配所ヨリ歸リタルモア
 リイ異端ノ熱信者ワレント帝ノ時又放逐セラレ大フエオド

シイ帝ノ時ニ至リテ歸ルヲ得、降生三百六十八年ニ至ル
 マテ收集ヲ治ノ遂ニ安然トメ世ヲ逝リタリ
 聖キリールカ著シタル啓蒙書及ヒ古ノ教會啓蒙者ト名ツ
 ケテ聖洗ヲ受クルニ備フル人々ノ爲ニスルノ教訓書數篇
 アリ此ノ書中ニ正教ノ定理ヲ説キ教會ノ諸例ヲ明カニ解
 キタリ

○聖致命者ハリサンブ及ヒダリヤノ苦難三十一日

第三世代ノ頃、酷シクハリステイアニン等ヲ窘逐セシ時ホレ
 ミイト云ヘル貴紳アリ其ノ子ハリサンブヲ教育センカ爲
 メアレキサンドリヤヨリロマニ至リシカロマハ彼ヲ善

待シ皇帝ハ彼ヲ舉テ議官トナシ少年ハリサンブハ著名ナル哲學師ニ就キ日夜勉勵シテ大ニ進歩セリ諸書ヲ通讀スルノ際、シマヤ聖福音書ヲ得テ潛心之ヲ誦讀シ一日感嘆スル_ト甚ダシク思ラク此ノ書ハ光明、眞智ナリト蓋シ書中永生ノ語アレハ也故ニ熱心焦思ノ聖福音書ト使徒等ノ書札ヲ讀ミタリハリサンブ以爲ラク人々ハリストスヲ識認セサレハ假令、人智ノ及フ所悉ク學ヒ得ルモ猶ホ暗昧ノ中ニアルカ如シト遂ニ先師ヲ信スルノ心薄シ_トハリストス教ヲ説キ己レノ魂ヲ照光スル所ノ良師ニ就カント欲シ「ハリステイア」ニ等ニ交際ヲ結ヒタリ而シテ其ノ朋友

等ハ身ヲ致シテ神ニ奉事スル虔敬ナル隠士ヲ紹介シケレハハリサンブハ遂ニ請フテ其ノ弟子トナリ隠士モ亦ハリサンブヲ愛シハリストス教ノ眞理ヲ説キ其ノハリストスヲ確信スルヲ認メ聖洗ノ機密ヲ授ケタリハリサンブハ聖洗ヲ受ケ魂ヲ堅メ神ヲ敬愛スルノ心益々熱シテ己レノ信仰ヲ隱ス_トテ欲セサレハ人前ニハリストスヲ承認シテ邪神ヲ棄テシ_トノハリサンブカ親族ニ聞ヘ大ニ彼等ヲ恐懼セシメタリ親族等皆ボレミイニ謂テ曰ク爾ノ子ハ何ヲ爲セシヤ爾注意シテ彼カ罪ヲ得テ拷治セラレチ免レシメヨ彼レ諸神ヲ蔑視シイニススハリストスヲ

認メテ眞神ナリト云ヘリ此ノ事若シ王ニ聞ヘナハ爾モ王ノ怒リヲ免カズ能ハズ蓋シ諸神ヲ誹ルハ國ノ嚴禁ニシテ爾ノ知ル所ナリト

ボレミイ之ヲ聞キ大ニ驚キハリサンブヲ召ヒ之ヲ説諭シテハリストスヨリ反離セシメントセリ然レト父ノ諭言ハ少シモ益ナケレバ父ハ怒リテハリサンブヲ一室ノ中ニ囚シ以テ正教ヲ棄テシメントセリ然レトハリサンブハ之ヲ棄ツルノ心ナキノミナラス却テ閑靜ナレハ益々熱心ニ身ヲ致シテ神ニ祈禱セリ親族等ハ此ノ如キ處罰ハハリサンブノ少シモ厭フ所ニアラザルヲ知リボレミイニ謂テ曰ク

爾何ヲカ爲セシヤ此ノ手段ヲ以テ爾ノ子ヲハリストス教ヨリ離サント思ヘシカ夫レ「ハリステイアニン」等ハ苦ニ渡サル、モ獄舎ニ繋カ、ルモ少モ苦ミトナサズ却テ己レノ神ノ爲メニ苦難ヲ忍ビ受ケ或ハ窘逐セラレハ彼等益々其ノ熱心ヲ顯ハセリ爾ハリサンブヲ反離セシメント欲セハ宜シク奢侈逸樂ヲ以テ彼ノ心ヲ奪フベシ此ノ世ノ快樂ハ能ク彼ヲ己レノ神ヲ忘レシムヘシトボレミイ其ノ説ニ從ヒ家屋ヲ修繕シ金銀珍珠ヲ以テ飾リ善ヲ極メ美ヲ尽シ力ノ及ハソカギリ千種萬様ノ快樂ヲ設ケ日夜歌舞音曲ノ斷間ナク且ツ美少女ヲ集メ山海ノ珍味ヲ尽シ盛宴ヲ張リテハリ

カンブチ迷ハシタリ之ヲ略言セハ年少ノ者ヲ眩惑スルノ
 法備ハラザルハナカリキ然レト少年ハリサンブハ誘惑ニ
 陷イルコナク神ノ助ケテ請願シ斷間ナク神ヲ思念シケレ
 ハ神ハ彼ヲ助ケ斯ル迷津ノ中ニ信仰ヲ堅メテ魂ヲ清潔
 ニ守ラシタリ
 父ボレミイ之ヲ見テ望ヲ失ヒ爲ス所ヲ知ラス因テ親族ニ
 告テ曰クアフィンノ一女神ノ殿ニダリヤト云ヘル小女アリ
 彼レ容貌世ニ優リテ美麗ナルノミナラス實ニ賢女ナレハ
 我カ子ノ爲メニ之ヲ娶リ彼レヲソハリサンブテ諸神ニ歸
 セシムベシト因テ親族ニ托シテ之カ縁談ヲ爲シケレハダ

リヤモ之ヲ諾シテボレミイノ家ニ嫁シタリシカバボレミ
 イハ涙ナカラニ愛子ヲ諭シテ諸神ニ歸セシメソト頼ミ
 タリ
 ダリヤハ大ニ若年ノハリサンブヲ愛シ己レモ其ノ愛ヲ受ケ
 ントテ綺羅ヲ着飾リ巧言ヲ以テハリサンブノ心ヲ奪ハン
 トセリ然レトハリサンブハ全心神ヲ思念シテダリヤノ誑
 言ヲ願ミサリキ
 或ル日ハリサンブハダリヤニ謂テ曰ク噫ダリヤヨ汝何ソ
 ソ虚飾ヲ好ミスク心ヲ摧キ辨ヲ飾リテ我ヲ勸メ我が善良
 ナル心願ヲ妨ゲ我ヲ蠱惑セントスルヤ爾反テ永遠ノ主神

イイススハリストスノ恩佑ヲ受ケンコトヲ勤ムヘキナリ爾
 今錦繡綺羅ヲ以テ其身ヲ飾ルガ如ク己レノ魂ヲ貞潔ト
 信仰トナシ以テ飾ルヘシ然ル時ハ主ハリストスハ爾ヲ愛シ
 玉ヒテ爾ノ爲メニ永遠ノ大宅ヲ備ヘ爾ノ名ヲ永生ノ冊ニ
 載セ爾ニ終リナキ尽ルナキ安樂ヲ賜ハント
 メリヤハ心情モ智識モ未ダ信仰ト眞理トノ光ヲ以テ照サ
 レス幼ヨリ異教ノ中ニ教育セラレ永生ノ何物タルヲ知ラ
 ズシテ人間総テノ目的ハ今世ノ安康幸福ナリト思ヒケレ
 ハ此ノ言ヲ聞キテ大ニ驚キハリサンプニ今世ノ歡樂ナル
 ト諸神ヲ拜スヘキノ理ト萬象ノ力ヲ神トナスノ哲學ノ理

ナ説キタレトハリサンプハ之ニハリストス教ノ明智ヲ以
 テ答ヘシカバメリヤハ遂ニ眞理ノ光ニ照サレ心豁然トシ
 テ「ハリステイアニソトナラントセリ是ニ以テハリサンプハ
 ダリヤト偕ニ生涯身ヲ致シテ主ニ奉事センコトヲ約シ而シ
 其ノダリヤヲ娶ルヲ諾シタリ

其ノ後、幾クモナクシテホレミイ世ヲ逝リシガダリヤハ
 ヲサンプヨリハリストス教ヲ學ヒ聖洗ヲ受ケテ二人偕ニ
 神ニ奉事シ凡テ隣人ノ益ヲ謀カリ熱心ニ福音ヲ傳ヘテ異
 教人ヲ反正セシメタリ彼等二人常ニ家ヲ異ニシ遂ニ修道
 院ノ如キ者ヲ創立スルニ至レリダリヤハ己レノ家ニアリ

テ多クノ處女ヲ集メ神ノ教ヲ傳ヘテ偕ニ祈禱シハリサン
 プハ新信者ノ中彼レノ如ク此ノ世ヲ棄テ家ヲ出テ至ク身
 ナ致シテ神ニ奉事セント欲スル人々ト偕ニ居レリ
 斯クテ數年ヲ過キケルニ羅馬ノ府知事ノ許ニ至リテハリ
 サンプダリヤノ二人ハ人ヲ惑ハシ其ノ信者等ハ汚穢ノ行
 ナ爲スト訴フル者アリケレハ知事ハ二人ヲ捕ヘ若シ偶像
 ナ拜セスンハ之ヲ拷治スヘシト命シ屬吏其ノ命ノ如クナ
 シケルモ神ハ異能ヲ以テ己レノ奉事者ヲ守リ彼ヲ縛シシ
 鐵ノ楯テガセツシカセ桎オ自ラ解ケタリ因テハリサンプヲ黑暗ナル獄舎ニ
 下シタルニ獄中煌々タル異光アリテ照シケレハ番卒大ニ

驚キテ之ヲ法官クラウヂイニ告ケシニ法官其ノ言ノ誠ナ
 ルヤ否ヤヲ正サントテ親シク獄舎ニ至リ此ノ奇蹟ヲ見テ
 幻術ノカトナシハリサンプヲ詰リテ曰ク爾ノ幻術ト爾ノ
 偽教ヲ捨テ爾ノ貴族タルニ適スル諸神ヲ拜スベシト
 ハリサレプ曰ク爾ハ我カ幻術ヲ爲スニアラスシテ神ノ力
 ニヨルヲ悟ラザルカ若シ爾ノ才能智慧カ異教ノ暗マス所
 トナラザレハ爾之ヲ悟リ得ヘキナリトクラウヂイハハリ
 サンプヲ獄舎ノ柱ニ縛シ酷ク二枝ノ笞ヲ以テ鞭撻セシメ
 タルモ「ハリスタニアニ」ノ身ハ痕タモ付カズ却テ其笞ハ麻
 ノ如クニ柔カナリシカハ皆驚キテ茫然タリ己ニシテク

ウデイイハ至上者ノカハリサンプヲ守ルヲ悟リ之ヲ呵責ス
 ルヲ止メテ曰ク我レ今彼ノ神ノ至大至強ナルヲ悟レリ我
 等今彼ニ耻辱ヲ與ヘタルヲ謝スルノ外他事ナシト遂ニ兵
 卒ト偕ニ聖者ノ前ニ俯伏シテ我等今爾ノ神ノ眞ナルヲ悟
 レリ願クハ爾、我等ヲ導キテ其ノ僕トナセヨト云ヒケルコ
 ハリサンプハ神ハ神ヲ心ニ尋ヌル潔ヨキ人ニ近ツキ玉ヘ
 ルトト神ノ能力ト神カ仁慈ニシテ人々ヲ憐レミ玉フヲ
 説キ諭シケレハ彼等心ヲ潜メ意ヲ注キテ之ヲ聽キ次テ親
 族ヲモ伴ヒ來リテ主ノ教ヲ受ケレハ數日ナラスシテ異教
 人ノ眞神ヲ信シ及ヒクヲウデイイト妻イラリヤ長子イアソ

ン次子マウル及ヒ士卒ノ中、聖洗機密ヲ受クル者多カリキ
 皇帝ヌメリアン之ヲ聞キクヲウデイイヲ海底ニ沈メ其ノ二
 子及ヒ信者ナル士卒等ヲ刑罰セシメケレハ此ノ新コハリ
 ストスニ歸セシ信者等ハ皆大ニ欣ヒ從容トシテ死ニ就キ
 タリ「ハリスティアニ」等ハ彼等ノ遺骨ヲ収メ刑場ノ近邊ナ
 ル洞穴ニ葬リシカハイラリヤ時々此ニ來リテ二子ノ墓上
 ニ流涕シテ其ノ救ヲ祈リシカ一日ヌメリアンノ士卒彼レ
 ノ祈リ居リタルヲ捕ヘ裁判所ニ引キ至ラントシケレハイ
 ラリヤ士卒ニ暫シ最後ノ祈禱ヲ爲スノ時ヲ請ヒ跪ツキ大
 聲ニ呼テ曰ク主イイススハリストス我カ全心誠意承認ス

ル所ノ神ヨ我ヲ爾ノ聖名ノ爲メニ命ヲ致セシ我カ子ト借
 ニ在ラシメ玉ヘト言ヒ終リ安然トシテ魂ヲ神ニ捧ケ、レ
 バ彼ヲ捕フルノ士卒等已ニ其ノ死シタルヲ見、之ヲ捨テ去
 リシユヘ「ハリステイアニン」等ハ其ノ亡体ヲ二子ノ墓側ニ葬
 リタリ
 斯クテハリサンブダリヤハ最ト酷シキ呵責ヲ受ケタルモ
 初メノ如ク神ノ異能彼等ヲ守リケレハ主カ彼等ノ爲メニ
 顯ハセシ休徴ヲ見テ異神ヲ識認セシ異教人多カリキヌメ
 リアン帝之ヲ聞キ大ニ震怒シ彼等ヲ城外ニ引キ出シハリ
 サンブダリヤヲ俱ニ活キナカラ地ニ埋メシメタリ

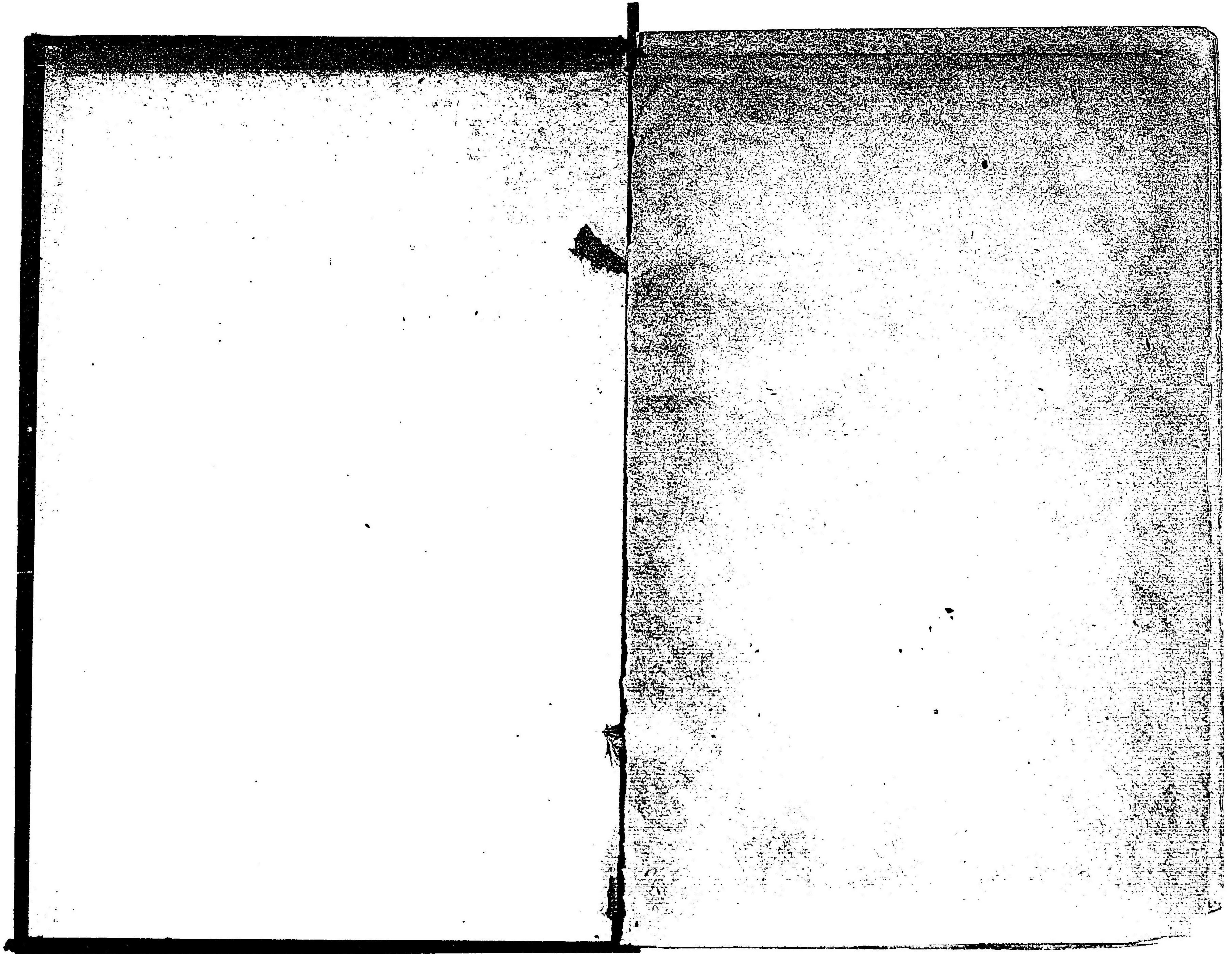
其ノ後時々「ハリステイアニン」等ハ聖致命者ハリサンブダリ
 ヤノ活キナカラ地ニ葬ラレンシ場所ニ群集シテ祈リケレハ
 神ノ異能ニヨリテ病ノ癒ル者多カリシ一日諸致命ノ命日
 ナリトテ夥多ノ「ハリステイアニン」等群集シ墓頭ニ程近キ洞
 窟ノ中ニアリテ祈禱シケルガヌメリアン帝之ヲ探リ知リ
 洞窟ノ入口ヲ閉テ之ヲ埋メシメケレハ内ニ在リシ衆「ハ
 リステイアニン」等長老ヲオドル輔祭マウリント俱ニ生息絶
 ヘテ致命セリ彼等ノ紀念モクヲウダイイラリヤ其ノ二子
 及ヒ聖致命者ハリサンブダリヤノ紀念ト俱ニ三月三十一
 日ニ行ヘリ

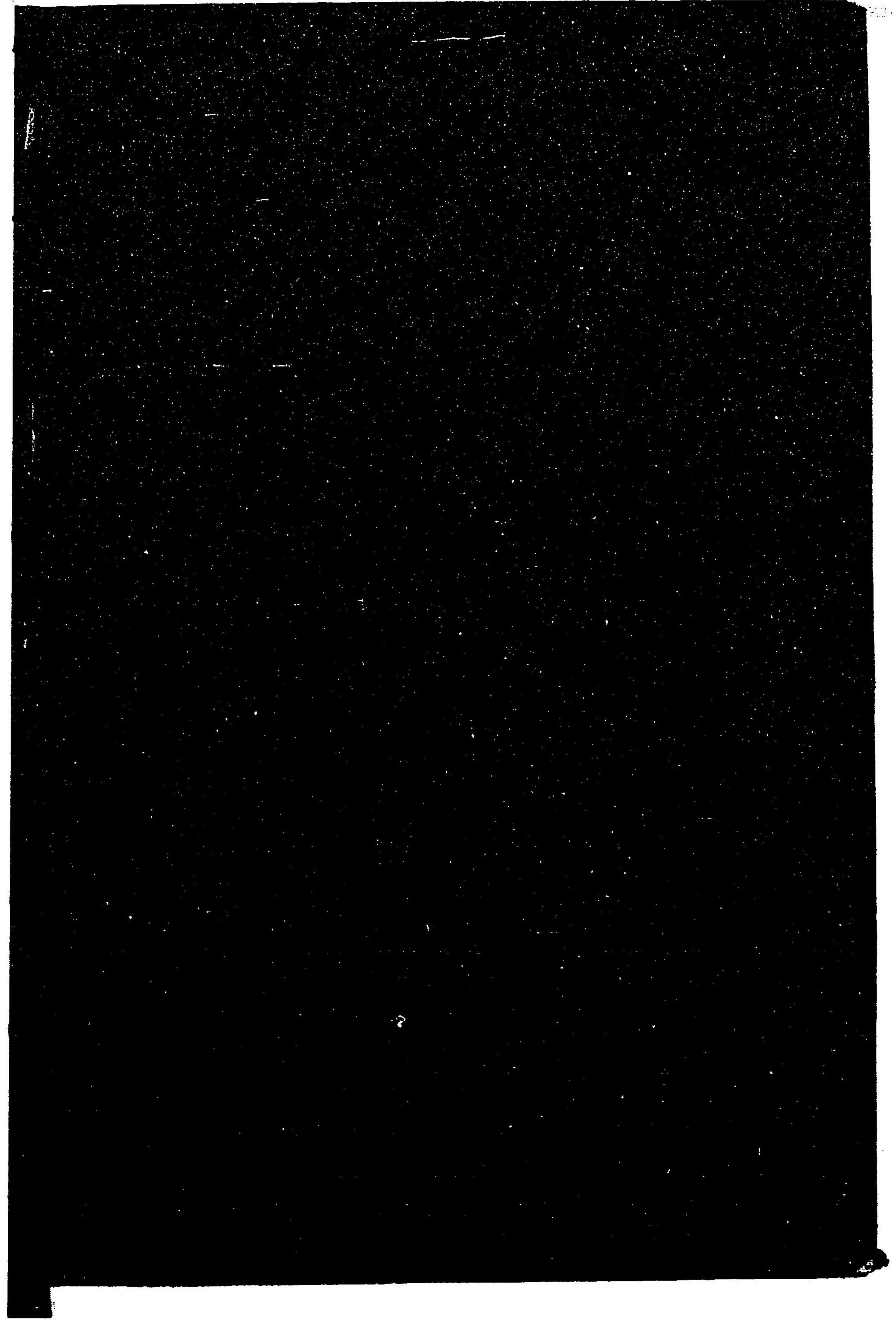
諸聖略傳三月之部終

正誤

四丁	六	(朽)ハ(朽)
廿	七	(預告セル)ハ(預告セラレ)
廿九	一	(朽)ハ(朽)
四十三	五	(什)ハ(什)
四十六	二	(力)チ(チ)ハ(カラチ)
五十五	五	(タラシイ)ハ(タラシイ)
七十二	三	(蕩カシ)ハ(蕩カシ)
百廿二	四	(戰慄)ハ(戰慄)
百廿七	八	(誠命)ハ(誠命)
百四十八	十	(遑ウセシ)ハ(遑ウセシ)
百六十八	五	(行フ)ノ下口時ノ字ヲ脱

二百五十七	二百卅八	二百卅一	二百十七	二百十五	二百七	二百六	百九十二	百八十二	百八十一
一	四	七	一	八	九	一	三	十	二
(ノ大帝)ハ(大帝ノ)	(ハリストスト)ハ(ハリストスコ)	(コスタントンティン)ハ(コンスタントン)	(シ)ハ(棄)ノ誤	(ノ帝)ハ(帝ノ)	(愛ヲ)ハ(愛シ)	(益ニ)ハ(益々)	(歴フ)ハ(厭フ)	(神ノ通)ハ(神ノ道)	(城ヲ回シ)ハ(城ヲ圍シ)





33
180

